



作業の工夫で作物を活かす

今年も天候に悩まされることが多い野菜栽培でしたが、厳しい環境下でも“工夫”してできることを一緒に考えていきましょう！

●土寄せ

①強風による葉や根の傷みを防ぐ！

強風等により、植物体が揺さぶられ葉が破れたり、根も揺さぶられることにより断根されて生育が悪くなったりするものです。特にキャベツ等の植物体と根の間にある「胚軸」が伸びやすいものや徒長した苗を植えた場合は注意が必要です。それを回避するために、クワやトンボのようなもので写真のように土寄せ作業をしましょう。



土寄せ前(徒長苗で浅植え気味でした)



土寄せ後

②追肥の効きを安定させる！

粒状の追肥は土壌表面に置くことになります。その場合、直射日光にさらされ肥料分が空气中に逃げる可能性があります。追肥後に土をかぶせることにより、肥料の効果を安定させましょう。

③根に酸素供給！

土を動かすことによって、酸素を送りこむができます。これは、中耕作業や雑草を取ったりすることでも同様の効果が得られるので、積極的にいきましょう。ただし乾燥が続く場合は、さらなる乾燥を招いてしまうため注意して見極めましょう。

ブロッコリーの収穫の工夫

ブロッコリーの多くの品種は、1本の苗から1房(頂花蕾)を出荷するという想定で品種改良がされていますが、家庭菜園では、わき芽(側花蕾)も含め何個でも取るのが一般的です。そこで、頂点の花蕾(頂花蕾)の切り方によって下記の図のように、次に出るブロッコリーの数と大きさが変わってきますので、是非お試しください！お孫さんやお子さんなどのために、小さいものを多く収穫したい場合は、高い位置で頂花蕾を切りましょう！

